

北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名（第4回）

当社は、白老町において7月12日にオープンを予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

その開館がよいよ近づいてきました。先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第4回目は、層雲峡発電所です。

層雲峡(ソウンキョウ)

道北地方屈指の有名観光地、層雲峡。大雪山の噴火により堆積した溶結凝灰岩が石狩川によって浸食されたことにより形成された、高さ 200m 前後の柱状節理の断崖を間近に見ることができます。



層雲峡本流ダム

近くには、「流星」と「銀河」という二つの大きな滝もあり、荒々しい渓谷と優美な滝を同時に楽しめるとともに、近くには道内有数の規模を誇る層雲峡温泉や黒岳ロープウェイもあり、豊富な観光資源を目当てに国内外から多くの観光客が訪れます。

この層雲峡に当社水力発電所の層雲峡発電所があります。大雪山に源を発する石狩川の水をダムで貯め、その水を導水路で下流に導き、落差を大きくして発電する「ダム水路式」。水の落差が 158.45m、発電出力が 25,400kW と、当社の石狩川水系の発電所としては、いずれも最大の発電所です。

ダムは観光地にあり、景観維持のため、観光期間中は一定量の水を放流しています。

さて、層雲峡の由来ですが、ソー・ウン・ペツ(so-un-pet 滝・ある・川)から来ていると言われています。旭川方面から層雲峡に入る手前の左側に、石狩川支流の双雲別川があります。この双雲別川が、ソー・ウン・ペツ(so-un-pet 滝・ある・川)と呼ばれており、大正 10 年にこの地を訪れた大町桂月がその音を聞き、層雲峡の字を充てたものだと言われています。

ちなみにアイヌ語の「ソー(so)」は滝を意味しますが、北海道内では、果物狩りで有名な壮瞥町がソー・ペツ(so-pet 滝・川)を充てた字と言われているなど、滝との関連がある地名が多いようです。

(出典：山田秀三「北海道の地名」)